

サセックス・ダウンズメン協会 (The Society of Sussex Downsmen) の活動:1947

坂梨健史郎

はじめに

イングランド南部に位置するサウス・ダウンズ (the South Downs) は、東はイースト・サセックス州から西はハンプシャー州にまで続く長大な丘陵地帯であり、それはロンドンを含むイングランド南部の多くの人々に今日まで愛されてきた。それは牧草地として機能しただけでなく、人々に散策と眺望の場を与え、その景観はイングランド南部の、時にはイングランド全体の自然のシンボリック的存在となってきた¹。

そのサウス・ダウンズのサセックス州内での景観保全やそのほか通行権等の保護を主な活動目的とする団体がサセックス・ダウンズメン協会 (The Society of Sussex Downsmen, 以下「SSD」とする) である。この非営利組織は1924年、サセックス在住の文人アーサー・ベケット Arthur Beckett を会長として、サセックス州およびロンドン在住の名士によって結成された。SSDは今日でも活発な活動を続けているが、本稿は前稿に引き続き、事務局長リリアン・ベイトリーの報告書および1947年5月24日の理事会議事録を基に1947年1月から5月にかけての活動状況について記述するものである²。

ウエスト・サセックス州州都チチェスター近郊のキングリー・ヴェイル (Kingley Vale) が恒久演習地になるとの複数の報道があり、SSD事務局長は陸軍省に宛て、1947年1月20日付の書簡にて「報道は当協会にとりまして至極不愉快であります」と抗議した。これに対する陸軍省からの返信はある程度宥和的な内容であった。「陸軍省土地要望一覧表 (the War Department Schedule of Land Requirements)、これはキングリー・ヴェイルおよびバウ・ヒルを含んでおりますが、都市田園計画省により設立され関係各政府部局の代表者で構成された委員会において目下検討中であります。私見では、この委員会の目的は軍の演習用地の要望を他部局の主張

との関連で調査し、個々の地域の公共施設 (a public amenity) としての価値を考慮に入れるものであります。しかしながら本件においては委員会が結論に達する前にあらゆる事情が考慮に入れられることを貴殿に確約いたします。」

次の項目は各地区責任者からの報告であった。この中で第8地区のダニー・パーク (Danny Park) における複数のフットパスに関して問題の報告があった。ハーストピアポイントの会員からのもので、「ダニー・パークは現在サー・ウィリアム・キャンピンより貸し出されているが、ウォルストンベリに向かう一連のフットパスが誤解を招く掲示により消失する危険があるやもしれず。A.W.ギブスン並びにA.L.フィールディング両氏が当該地域を訪れ、下記のような極めて有用な情報を添えた素描図を提出した」というものであった。

1. フォーク (Fork), ニュー・ウェイ・レーン (New Way Lane) およびダニー・ロッジ (Danny Lodge) における「私道につき、自動車および自転車は通行禁止」なる掲示。歩行者の通行権に疑義が生じないように、不動産業者 (Agents) が「ウォルストンベリへのパブリック・フットパス」なる追加の掲示を設置することを提案する。

2. ダニーにおける「私道及び私有地」なる二枚の掲示。「プライベート・フットパス (private footpath)」という掲示に右方向の矢印を添えれば状況が明白になろう。

3. 牧草地 (field) を斜めに横切ってトリープス・レーン・スイング・ゲイトに至る小道にサウス (マドルズウッド) ロードから入るV字型のスタイル [著者注: stile 柵越え段] について。生け垣を刈り込み、スタイルとフットパスを回復させるべきである。なお、現地の情報では、ウォルストンベリには鉄線その他の軍による残置物 (military debris) が未だ多数存在するものの、その他の地点では通行権の妨害は一切ないとのことであった。

A.W.ギブスンよりの別件の報告によれば、彼が1946年6月にスタンマーとディッチリング・ビーコン間を歩いたところ、同地が陸軍省により「戦慄すべき状態」に放置されていることを発見した。1947年1月に現地を再訪した折には同氏はその変貌ぶりに驚愕し、ほぼ正常な状態であることを報告できて満足とのことである。彼は感謝状をブライトン市に送ることを提案している。それに従い事務局長が同書簡を認め、この機会を利用していかなる撤去方法を採用したのか照会した。この困難な仕事 [著者注: 撤

去] に対処するに当たり提案を求めていた陸軍省に件の情報を提供できるようにである。しかしながらブライトン市担当者からの返答は、照会のあった土地は未だイースト・サセックス州戦争農業実行委員会 (East Sussex War Agricultural Executive Committee) による接収下にあり、撤去に影響力があつたのはこの委員会だった可能性があるとのことであつた。

パッチング・ウッズ (Patching Woods) のフットパス問題は「未解決の案件」であつたが、これについてもチャンドラーは調査を行い、「森林委員会による掲示で使われている『立入禁止 (Keep Out)』の表現が明確に妨害物であり、公衆を誤解させる恐れがある。(中略) ウィーパム・ウッズ (Wepham Woods) ではオーク、ブナ、トネリコの美しい森が尽く伐採されている」と結論付けた。

これに対して1946年12月23日付けの森林委員会からは、「同書簡はサリー州ウォウキング、チョバム・ロードの南東イングランドの管理員サールトン (Thurlton) に回付し、貴殿の要望に適うべくしかるべき対処をとられたしとの指示を与えた」という回答があつた。

森林委員会管理地区内での散策の可否については、同委員会理事のシェパードがバットに語ったところでは、「実際には、損傷を与えたり道筋から外れたり、犬を紐につながなかつたり、現地で弁当を広げたりしなければ、管理地区に滞在したことで訴追されることはない」と言うことであつた。ただ時期によって失火のリスクがある場合には管理地区への侵入者は退去させられる。すなわち葉が出る前、三月か四月初めの春の乾燥期の場合である。特にシェパードが強調したのは、焚き火や割れた瓶等からリスクが生じること、また杖を不用意に振り回す行為は若木に多大な損傷を与える恐れがあるという点であつた。事務局長リリアン・ベイトリーはバットに対し、これらの点をSSDの年次報告書のなかで特に言及しておく伝えてい

1947年5月24日の理事会では、まずクロウリンクが議題となつた。最近の書簡がすべて回覧され、以下のように合意された。「現段階ではこれ以上できる有効なことはなく、ナショナル・トラストを相手とする訴訟を仮に提起した際に要する750ポンドもの金額は、現在の困難な状況では一般からは望み薄である。しかしながらこの公共の所有物たるダウンランドにかつての自由を確実に回復させるために、サン委員会 (Sun-Committee) は存置し1950年には活動可能になっていなければならない。」

次の議題はスタンマー・パークであった。1947年5月2日付けのビーミッシュ少佐からSSD事務局長への書簡で、同地所への最新の脅威についての情報提供があった。「陸軍省が同地所の購入の可能性を検討中らしいが、この問題に関してはいまだいかなる決定にも達していない」という情報である。同地所に関しては地元ブライトン市が住宅建設を計画中であったが、事務局長リアン・ベイトリーはこの陸軍省の購入計画とブライトン市による建設計画を「SSDが目下直面している二つの害悪 (two evils)」と呼び、議事録を以下のように記している。「仮に陸軍省が訓練目的のみで一年の数ヶ月間だけ同地所を使用する意図ならば、ブライトン市による建設計画よりはましであろうと感じられた。」景観保護および公衆アクセスという観点からすれば、前者のほうがいわゆる「より少ないほうの害悪 (lesser evil)」であると判断したわけである。

フリストン飛行場の一部建物の撤去に関して、理事会の席上、SSD事務局長とイースト・サセックス州議会担当者との往復書簡が呈示された。同担当者は事務局長に対し、聖職者委員会が既存の建物の一部を改装の上使用したいとして許可を申請してきた旨、内密に情報を提供してきた。この件は同州議会計画委員会に付託されたが、同委員会はかかる提案に満足せず、飛行場の戦時中の建物の完全撤去を引き続き強く求めているとのことであった。事務局長の返答は、「自分は個人的にはこのような案件は内密にされるべきではなく、建物維持の提案に反対する輿論こそが貴重であると考えている」というものだった。その後の書簡で同担当者は賛意を示し、また州議会としては建物の撤去を確実にするべくSSDが加えることのできるいかなる圧力も歓迎すると記している。

次の議題は第11地区のイースト・ディーン・ダウンランズ (East Dean Downlands) についてであった。クルック博士は事務局長に、この地所が最近人手が移ったことを知らせてきた。この知らせを受けて、事務局長は直ちに地区計画官と連絡を取り、この新しい地主に前地主の計画を継続する権利があるか否か、それとも新規の計画を提出する必要があるか否かを照会した。ウォーディルは前地主に下りていた許可は「土地に付随する」と回答した。ただし、現在国会で審議中の新法では、新規申請が必須になった1943年よりも前に下りたすべての開発一時許可を撤回することを目的とする規定が盛り込まれているとのことであった。

理事会ではさらに、稜線 (sky-line) 上の既設の建物について、相応し

い木立を植えることでその輪郭を和らげる問題について議論され、それらの住宅の所有者は要請を受ければこの提案を考慮する可能性があるとも考えられた。クルック博士はまた、この発想に興味を持ってくれそうなイーストボーンの住民を一人二人知っていると言った。議事録では、事務局長は森林委員会にアプローチして、相応しい樹木について助言を求め、「またジョヴィントン (Jovington) への眺望を開くためフリストンの樹木を例えば30ヤード (約9メートル) ほど伐採して隙間をつくることを検討してくれるか否かを照会することとなった。」と記されている。この一節では景観のために一方では植樹し、他方では伐採するという正反対の方策が検討されている点が興味深い。

まとめ

キングリー・ヴェイルが恒久演習地になる懸念が生じ、SSDは陸軍省に抗議した所、同省からは「関係各政府部局で検討中」との回答を得た。ダニー・パークのフットパスにおいて誤解を生む掲示があり、また生垣の繁茂によりスタイルとフットパスが覆われていることが問題となった。スタンマーとディッチリング・ビーコン間のフットパスが正常な状態に回復したことについては、州の戦争農業委員会の指示で行われた可能性が指摘された。パッチング・ウッズのフットパスにも誤解を生む掲示があり、SSDは森林委員会に対処を求めた。ただ、森林委員会管理地区内での散策について、一定の条件付きで黙許が得られたのは収穫であった。クロウリンク問題については、近い将来のナショナル・トラストとの訴訟に備えておくことが合意された。スタンマー・パークについては陸軍による購入とブライトン市による住宅建設の「二つの悪」の間の選択を迫られた。フリストン飛行場の建物撤去については聖職者委員会からの建物存置の提案に反対し、州当局とも連携を取る事となった。イースト・ディーン・ダウンランズの所有権移転については、前地主の計画が法的に引き継がれるか否かが問題となったが、国会で審議中の法案に望みを託す事になった。稜線上に木立を作り建物を隠す発想と、樹木を伐採し眺望を開く発想については森林委員会の助言を求める事になった。

1 Peter Brandon, *The South Downs* (Chichester, 1998), xv.

2 本稿の史料は英国イースト・サセックス州文書館 (East Sussex Record Office) 所蔵の「サセックス・ダウンズメン協会運営委員会議事録 (The Minutes of the Executive Committee of the Society of Sussex Downsmen)」およびそれに添付された書簡や文書である (整理番号 ACC6849)。なお、SSDは現在では「サウス・ダウンズ協会 (South Downs Society)」という名称になっている。